

記者発表資料

令和6年10月25日

宮城県多賀城跡調査研究所研究班

担 当 廣谷和也・鈴木貴生

電 話 022-368-0102

現場携帯電話 090-3642-0324

メール [tagajo\\_lab@pref.miyagi.lg.jp](mailto:tagajo_lab@pref.miyagi.lg.jp)

多賀城跡第100次発掘調査現地説明会の開催について

当研究所の調査研究活動につきましては、日頃から御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

当研究所では、令和6年度事業として、5月20日より多賀城跡第100次発掘調査を実施しております。このたびその成果がまとまり、11月2日の一般公開に先立って、下記のとおり報道機関の皆さまへ公開発表を致しますのでお知らせします。

記

- 1 日 時 報道機関公開 令和6年10月31日（木曜日）（雨天決行）  
午後1時30分から午後2時30分まで  
一 般 公 開 令和6年11月2日（土曜日）（小雨決行）  
午前10時30分から正午まで
- 2 会 場 多賀城市市川字新西久保地内 多賀城跡第100次発掘調査現場  
JR東北本線 国府多賀城駅より徒歩25分（別添地図参照）
- 3 説 明 者 宮城県多賀城跡調査研究所 廣谷和也 鈴木貴生
- 4 調査内容 別紙資料を参照ください

## 多賀城跡第100次調査の成果について

### 調査の目的

特別史跡多賀城跡は奈良・平安時代の陸奥国府跡です（724年～11世紀前半頃）。宮城県多賀城跡調査研究所では、昭和44年以来、5ヵ年計画による発掘調査を計画的に実施し、実態の解明を進めています。今年度は第12次5ヵ年計画の1年目にあたり、多賀城跡の外周りを囲む区画施設の解明を目的として、新西久保地区で西辺の調査（100次調査）を実施しています。

### 調査成果

南側低地で材木塀、北側丘陵部で積土遺構<sup>つみつち</sup>を発見し、区画施設の構造が変化することがわかりました。

- ・低地で材木塀を南北約10m分発見しました。西辺では過去の成果と合わせて合計約250m以上材木塀が伸びていることがわかりました。材木塀は2回以上作り直されており、柱材を立てるために埋めた土に入る火山灰の年代から、一番新しい時期の材木塀は10世紀前葉（915年ころ）以降に建てられています。
- ・北側丘陵部では、交互に土を盛った積土遺構<sup>つみつち</sup>を発見しました。区画施設の一部とみられます。
- ・西側の区画施設は、今回の調査区内で低地と丘陵で用いられる工法が変化することがわかりました。こうした変換点が見つかったのは、城内では初めてのことです。



調査地点（南から、奥が加瀬沼公園）



検出した材木塀（南東から）  
密に並べられた柱の列が圧巻です！